（別記様式第３号）

普及活動検討会実施報告書

登米農業改良普及センター
実施月日：令和　８年　９月　２日
実施場所：登米合同庁舎、中田町現地ほ場

１　検討内容

No	検　討　項　目
1	令和８年度普及指導計画について
	プロジェクト課題
2	№1「次代を担うきゅうり生産者のステップアップによる生産性向上について」
3	№2「水稲低コスト・省力化栽培技術導入夜担い手の法人化及び組織の経営安定について」
4	№3「環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立について」

２　検討委員の構成

（単位：人）

区　分	人数	区　分	人数
先進的な農業者	2	生　活　者	
若手･女性農業者	1	学識経験者	
市　町　村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1
（マスコミが当日欠席）			

３　委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
令和８年度普及指導計画について	3.8	・県の条例や地域方針に即した、意欲的な計画であり、担い手育成や地域活性化に繋がる総合的な内容である。 ・先端技術やスマート農業の導入により、生産性向上や魅力ある農業農村づくりが期待できる。 ・検討会では重点活動ごとの進捗状況など、項目別の説明があるとより良くなる（時間の制約はあるが）。 ・幅広く盛り込むよりも、もっとシンプルで分かりやすい内容で良いのではないか。	・計画全体の明確化・重点化を図るとともに、今後の検討会においては全体の進捗状況が把握できるよう、説明資料や時間配分を工夫して効率的な運営に努めます。 ・また、普及指導基本方針に基づき地域農業の持続的発展に向けた取り組みを計画的に推進します。
プロジェクト課題№１次代を担う	3.8	・夏季の高温対策やCO2削減など、環境負荷低減に向けた取り組みは非常に重要である。 ・実証圃場のきゅうりの出来栄えは素晴らしく、収量増加や作業環境	・遮熱剤等の導入にあたっては、10aあたりの費用対効果(収量をいくら伸ばせばコスト回収できるか)の指標やデータを整理し、提示

きゅうり生産者のステップアップによる生産性向上について		改善のメリットへの期待が大きい。 ・JA のプログラム（営農経済事業活性化）とも課題意識が共通しており、連携効果が期待できる。 ・遮熱塗布剤の実証実験（10a あたり 27 万円）は費用対効果（コスト高）の面で厳しく、導入できる生産者が限られる。 ・気象条件に左右されるため検証に時間がかかる。ハウスの半面だけ塗布して比較したり、塗布・剥離のパターンや時期を変えたりするなど、効果検証の手法や指標を工夫すべきであった。 ・きゅうりだけでなく、他の夏野菜でも検証を試みてほしかった。	します。 ・効果検証の方法として、対照区（未処理ハウス）の環境データ、収量データ等との比較を行い、客観的な検証を行います。 ・コスト低減に向けた他の手法も検討するとともに、きゅうり以外の夏野菜への応用についても情報収集・検討を進めます。
プロジェクト課題№.２ 水稲低コスト・省力化栽培技術導入夜担い手の法人化及び組織の経営安定について	3.5	・一般社団法人の設立や「地域まるっと中間管理方式」など、新しい形での組織化や農地集約の試みは大いに評価でき、今後の展開が楽しみである。 ・圃場整備事業は担い手にとってチャンスであり、スマート農機のレンタル活用なども経済的負担軽減に役立っている。 ・法人化は達成されたものの構成員の年齢層が高く、将来的な持続可能性に不安が残る。 ・地元住民（内ノ目地区等）がこの取り組みをチャンスとして捉えきれていない点が残念であり、時代に合わせた段階的な指導が必要である。 ・水稲と作業が重複しない高収益野菜の導入や加工用トマトの選定など、経営安定に向けた配慮事項が多い。	・今回設立された一般社団法人は、地域住民や地権者の理解・共感が欠かせません。引き続き、段階的に丁寧な情報提供と意向把握に努めます。 ・法人の経営安定に向け、水稲作業と労力分散が可能な高収益作物（野菜･加工用トマト等）の導入検討やスマート農機の活用支援を行います。
プロジェクト課題№.３ 環境負荷低減型水稲乾田直播栽培技術の確立について	4.5	・時代が求める「担い手不足対策」「低コスト・省力化」「環境負荷軽減（可変施肥・除草等）」にマッチした頼もしい取り組みである。 ・大規模化が進む中で減少傾向にある環境保全米に代わる認証や技術として、普及拡大が期待される。 ・農家の経験則だけでなく、データを活用して誰でも取り組める農業を目指す点が評価できる。 ・乾田直播（乾直）は現状、大規模経営体向けとなっており、中・小規模経営体が取り組めない。今後は中・小規模経営体向けの課題設定も望まれる。 ・園芸用真空播種機や既存機械の改良など、小さな農家や小さな圃場でも導入・省力化できる可能性を探ってほしい。	・大規模経営体向け技術の定着を図るとともに、地域の環境保全米等との連携や認証取得に向けたアプローチを検討していきます。 ・中・小規模農家においても導入可能な省力化技術や小型機械･既存農機の応用可能性について、ニーズを把握しながら技術情報の収集・検討を行います。

その他		・普及センターの精力的な普及活動全般について評価する。 ・提示された課題は JA の事業とも共通しており、今後も情報共有を行って連携していきたい。 ・担い手が行政・JA に依存しすぎている印象を受ける（地域主体の自立性が課題）。 ・高温化対策として取り組みやすいコスト削減策や、若手・女性が中心となって活躍できる場の創出を期待する。 ・畜産に関するプロジェクト課題も検討してほしい。	・行政や JA 等の関係機関と密に情報共有を図りつつ、地域農業者が主体的に経営や組織運営に取り組めるよう「伴走型」の支援を実施します。 ・畜産部門をはじめとする他課題についても、地域のニーズを踏まえながら今後のプロジェクト課題の選定に向けて検討を進めます。